



從七位本橋莊次郎位記返上

ノ件

右謹テ奏ス

明治三十四年五月二十四日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

内

閣

内閣書記官室 陸第一三三聯

明治廿四年五月廿三日

内閣書記官

内閣總理大臣 印

内閣書記官長 印

從七位本橋莊次郎位託返上ノ件

從七位 本橋莊次郎

位託返上致スヘシ

五月廿七日發表ス

内閣

明治廿四年五月廿三日

内閣書記官

内閣總理大臣

印

内閣書記官

印

後七位本橋莊次郎位託返上ノ件

後七位 本橋莊次郎

位託返上致スヘシ

内閣

位 八〇 號

元陸軍技官位七等本橋壯次郎
右收賄罪に依り重禁錮、又分り受けるに叙じ、
沖田案に該當する旨宣旨書下され、以て具申也
明治三十四年五月十六日

陸軍大臣男爵児玉源太郎



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

陸 軍 省

498

和歌山縣和歌山市拾三番町七番地
當時石川縣金澤市松ヶ枝町二番地寄留
平民戸主

元金澤陸軍經營部附
陸軍技手從七位勲七等

本橋莊次郎

安政元年四月十日生

被告ハ金澤陸軍經營部ニ在勤シ金澤陸
軍兵器支廠野村倉庫地ニ彈藥庫二棟
及ニ周圍ノ土壘新設ノ際高級技手ニシテ
設計掛ノ故ヲ以テ監督担任技手以下ヲ監視

工側ラ工事、監督中該工事請負人田村觀代
 代人山田瀧次郎ヨリ煉瓦積用ボールト及
 筋助金ハ定數ノ購入ヲ為スモ徒ニ職工等ニ
 取セラル、ノ虞アリハ最初ヨリ半數使用ノ
 計畫ニ致シタリ、依テ豫メ承知アリタキ、
 工事ノ手援キ材料ノ不完全ヲ默過センコ
 トノ囑託ヲ受ケ為メ、隅柱ト隣柱トヲ聯
 繫スル煉瓦積用ボールトハ、隅ニ二段、
 一段ニ二本ツ、二棟ニ計三十二本、
 各隅一段ツ、即ケ十六本ハ完全ノモ
 ノヲ使用シ他ハ隅柱ノ外方ニ其長
 カ僅カニ隅柱限リノモノ、或ハ隣柱ト
 間隔ノ四分

ノ一ヲ超ヘサルモノニテ全ク効用ナキ
 モノヲ打込ニ同筋金ハ煉瓦五段毎ニ入
 レ二棟ニ統計八百餘枚ノ處二百枚ハ
 正式ノモノヲ使用シタルモ他ハ長サ一
 二寸ニシテ左右ノ柱ヲ聯繫セズ殆
 ント効用ナキモノ五百枚ヲ左右ノ柱
 ニ打付ケタルノミ、梁木ハ正角ナ
 ルヘキ處半數以上丸身附ノ木材ヲ使
 用シ床板側張板ハ板割即ケ一寸板ナ
 ルヘキ處七八分板ヲ混用シ土居葺ハ
 葺足一寸四分ナルヘキ處二寸五分
 分以上ト為シ屋根張ノ亜鉛板ハ十番
 板ナルヘキ處、鐵板ハ三十番板ナ
 ルヘキ處、一棟ハ二十七番板、一棟
 ハ二十八番板

使用スルコト等ヲ知テ之ヲ看過シ其報酬トシテ
明治三十三年三月ヨリ同九月マテノ間ニ於テ龍次
郎ヨリ六圓ニ金百三十九圓二十二銭ヲ收受シタ
ルモノナリ

以上ノ事實ハ被告供述ノ一部理事、被告人並
ニ本件附帶ノ收賄事件被告人浅野外吉同詐
欺取財事件被告人山田龍次郎証人永富半
藏中沼豊次郎樋口一二中西勝男大野久太
郎及浅野外吉山田龍次郎被告事件、証人岩
澤正儀杉原全徳橋本宗平竹田磯右衛門
木舟喜六田牧豊吉鑑定人竹内作太郎松任外

次郎ニ對スル各訊問調書兩回、檢證調書橋本
宗平提出ノ金物明細記金澤陸軍經營部ヨ
リ送附ノ仕様書及契約書謄本押收シタルコト
ルトシテ助金ニ徴シテ其證憑十分ナリ
之ヲ法律ニ照スニ官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ
收受シ因テ不正ノ處分ヲ為シタルハ刑法第二百
八十四條第二項ニ該シ同條第一項ノ刑ニ一等ヲ
加ヘ處分スヘキモノトス仍テ判決スルコト左ノ如シ
被告木橋莊次郎ヲ重禁錮四月附加罰金八圓
ニ至ル其收受シタル金百三拾九圓二拾二銭ハ既
ニ費用シタルニヨリ刑法第二百八十八條末段ニ

依リ被告ヨリ追徴ス

明治三十四年五月十日

第九師管軍法會議
判士長以下官氏名ヲ要ス

右原本ニ依リ謄寫ス

明治三十四年五月十日

第九師管軍法會議
録事 松尾 相正

